

担当者の一言. 『獲ったカモってどうやって回収するの?』

# 鳥獣センター通信

Topics

鳥獣センターでは、鳥獣被害対策マイスター等を対象として、被害防止対策の適切な知識の普及や、現地における技術定着等を目的に研修を実施しています。  
今回は、12月に実施した2つの研修について、ご紹介します。

## 中小型獣対策研修(アライグマ含む)

### (1) 座学

外部講師(古谷先生)を招き、アライグマやアナグマなど中小型獣の生態や被害の見分け方について学びました。



### (2) 現地研修

アライグマと思われる痕跡(柱の傷等)がある3箇所の地点を調査しました。古谷先生に確認していただき、2箇所はアライグマ、1箇所(蔵田神社)はテコンによる爪痕であることが分かりました。



### (3) グループワーク

西日杵地域と東日杵地域に分かれて、大きい地図にアライグマが捕獲された地点を書き込み、その後、気づいた点や今後の対策等についてグループの代表者に発表してもらいました。



開催場所をアライグマが捕獲、目撃されている県北にすることで、多くの人に参加していただきました。現場で痕跡を見たり、探したりすることで、アライグマ侵入への危機感を持ってもらうきっかけになったのではないかと思います。

## ジビエ捕獲者研修

ジビエの普及拡大を図るため、ジビエ活用に適した捕獲方法等についての研修と、優良事例の取組事例研修を開催しました。(主催:農政企画課 中山間農業振興室)

京都府において、自らもジビエハンターとして活躍されながら、ジビエ処理加工施設を運営されている垣内氏に講習をしていただきました。

座学では、捕獲段階での止めさし、放血処理がジビエの品質に大きく影響することを説明され、その後、広場にて実際のシカの『と体』を使用し、実演(止めさし、放血処理)しました。



止めさし(デモンストラショ)



放血処理



株式会社ART CUBE  
代表取締役社長 垣内規誠氏

垣内氏は、捕獲、処理、販売まで実際に取り組まれているため、受講者の方からは『とても参考になった』との声を多くいただきました。

## 担当者の一言

冬といえば『鳥インフルエンザ』が猛威を振るう時期。ということでも今年も(?)、せつせとカモ猟を行っております。獲ったカモを回収する際、困るのが『陸から遠くて届かない!』という点です。



届かない(泣)

そこで今年は、満を持して秘密兵器(カモの作り物)を導入しました。何とこのカモ、中に水上ラジコンが入っているため、池を自由に行き来できます。

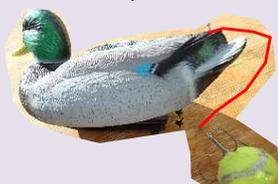


プラスチック製



裏はラジコンです

獲ったカモを引っかける用のフックをテニスボールに付けて、カモと紐で結べば完成です。



カモとボールは釣り糸(赤)で結ぶ

水草が絡んでロストしかけるといふハプニングを乗り越え、きちんと回収できました。今年はいくさん獲れるカモ。

被害対策に関する問合せ

西日杵支庁及び各農林振興局  
各市町村・各農協・各森林組合等

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 東臼杵(南部)地域

○令和5年度鳥獣被害対策リーダー研修会を開催

東臼杵西部地区(諸塚村、椎葉村、美郷町、11/16)、(日向市11/20)、(門川町、1/12)に今年度新たにワイヤーメッシュ柵設置を行う集落の代表者が参加し、鳥獣被害対策リーダー研修会が開催されました。

管内の鳥獣被害は、農産物の被害はやや減少していますが、林産物の被害は増加傾向です。

特に獣種別では、シカ、イノシシによる被害が増加しており、サルは少ない傾向となっております。室内研修では、交付金活用時の注意点として、担当者から柵設置の工期や、設置後に提出が必要な書類等について説明されました。

農業改良普及センターからは、「集落ぐるみの鳥獣被害対策について」と題して、鳥獣被害対策に成功した県外の優良事例等をDVDで紹介し、集落全員が一致協力して対策を実施することで、効果が向上することを理解していただきました。

鳥獣被害対策支援センターからは、「鳥獣被害対策の基本とワイヤーメッシュ柵の設置・維持管理のポイント」と題して、効果的な柵の設置方法や設置後の雑草管理等の要点を説明していただきました。

現地研修では、メーカーの担当者を交えて、現地ほ場で、ワイヤーメッシュ柵等の設置作業を実施しました。今後、この研修会で学んだ手法を活かしながら、各集落で柵の設置が進められ、対策が実践されるのが期待されます。



鳥獣被害対策室内研修



ワイヤーメッシュ柵設置現地研修

## 北諸県地域

北諸県地域では、近年いちごの栽培に取り組む新規就農者が増えています。都城市山田町の新規就農者のいちごハウスにおいて、イタチによる被害の報告がありました。そこで、小動物対策として実用化されているネットと電気柵線が一体となった電気ネットを地域特命チームのモデル実証展示として設置し、その効果を検証したので、この取組についてご紹介します。

○設置に向けた現地調査

令和5年9月8日に、生産者立ち会いの下、地域特命チーム鳥獣被害対策支援センター、電気柵メーカーの末松電子製作所で被害状況の確認を行いました。



展示ほ設置作業の様子

○実証展示ほの設置  
令和5年11月2日に、生産者地域特命チーム、JA、鳥獣センター、末松電子製作所の合計15名で電気ネットの設置を行いました。ほとんどのメンバーが電気ネットの設置をするのが初めてだったため、末松電子製作所担当者の説明を受けながら、設置作業を実施しました。

○設置後の状況

現在までに被害は確認されていませんが、中・小型動物によるいちごの被害は春先から発生するケースが多いため、今後も定期的に確認を行いながら、普及性を検討していきます。



小動物対策の電気ネット

